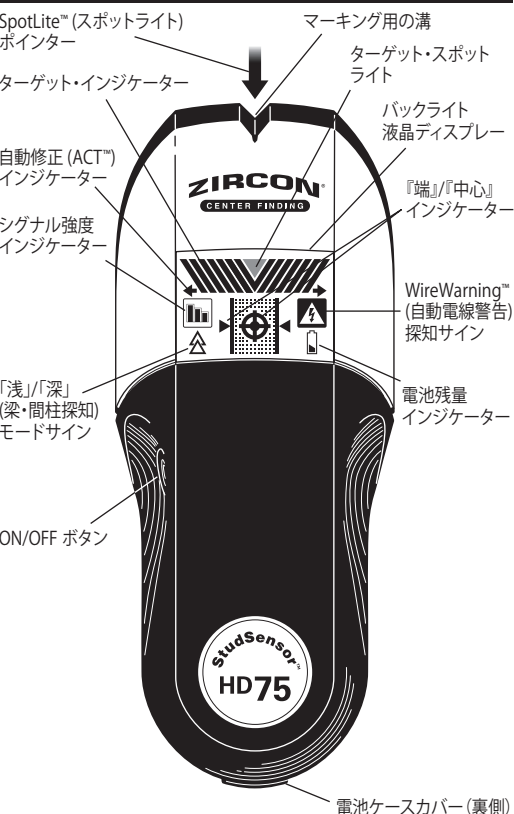


スタッドセンサー™ HD75 OneStep™ 梁・間柱の『中心』探知器



スタッドセンサー™ HD75 OneStep™ は、壁裏、床下、天井裏に隠れた木製と金属製の梁や間柱の『中心』と『端』を素早くワンステップで探知します。本製品には青のバックライト、ターゲット・スポットライト、さらに特許取得済みのSpotLite™ (スポットライト) ポインターが搭載されています。WireWarning™ (自動電線警告) 探知機能は、「浅」・「深」の両モード作動中に通電中の AC (交流) 電圧・電線を自動的に探知してお知らせします。

1. 電池の取り付け・交換

本体裏側下方の電池ケースカバーのつまみを押し、カバーを開けて下さい。プラス (+) とマイナス (-) の端末をケース内に印刷された図に合わせて、新しい 9 ボルトの角電池を挿入して下さい。電池をしっかり押し込み、カバーを閉めます。

電池残量インジケータ：電池の残りが少なくなると、電池残量インジケータが液晶画面上に現れます。この時点では本体は作動しますが、できるだけ早く新しい電池に交換して下さい。インジケータが点滅し始め、画面上にその他の表示が何も現れない場合は、電池残量が本体の作動に必要なレベルを下回ったことを意味します。直ぐに新しい電池に取り替えて下さい。

Zircon 製品、特に液晶 (LCD) 画面を搭載したモデルは、電池からの電流を大量に消費します。これらの製品が最適な状態で作動するように、新しいアルカリ乾電池をご使用下さい。

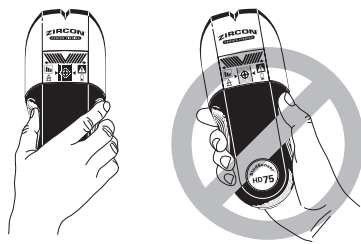
製品の取扱には万全を期しておりますが、万が一問題が生じた場合は、まず電池を新品のものと交換して下さい。それでも問題が解決しない時には、最寄の Zircon 代理店、または E メール (info@zircon.com) でカスタマーサービスまでお問い合わせ下さい。



2. 操作上のヒント

最適な探知結果を得るため、スタッドセンサー™ HD75 OneStep™ を正しく持ち、ゆっくりと動かして下さい。下記のヒントはさらに正確な探知結果を得るお手伝いをします。

- 右手の親指が片側、残りの指がもう片側にくるようにして本体のハンドル部をつかみます。この時指先がハンドル部上に置かれ、探知表面や探知機能頭部などに接触していないよう注意して下さい。
- 本体を真っ直ぐに持ち、間柱に対して平行になるようにします。この時傾いたりしないよう注意して下さい。

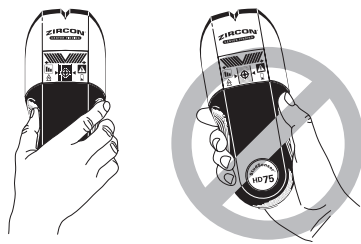


- 壁にピッタリと付け、探知表面全体をゆっくりとスライドさせて探知して下さい。この時探知表面上で本体を揺らしたり、傾けたり、あるいは強く押付けたりしないよう注意して下さい。
- もう片方の手や身体他の部分が探知表面に触れないようにして下さい。探知結果に影響を及ぼします。
- もし探知結果に一貫性がない場合、湿度、壁内の空洞や石膏ボード壁内に溜まった水分、または最近塗られた塗料や壁紙がまだ完全に乾いていないことなどが理由に挙げられます。湿気はいつも目に見えるというわけではありません。条件により、製品のセンサー機能に影響していることがあります。壁が完全に乾燥するまで数日間待つて下さい。

2. 操作上のヒント

最適な探知結果を得るため、スタッドセンサー™ HD75 OneStep™ を正しく持ち、ゆっくりと動かして下さい。下記のヒントはさらに正確な探知結果を得るお手伝いをします。

- 右手の親指が片側、残りの指がもう片側にくるようにして本体のハンドル部をつかみます。この時指先がハンドル部上に置かれ、探知表面や探知機能頭部などに接触していないよう注意して下さい。
- 本体を真っ直ぐに持ち、間柱に対して平行になるようにします。この時傾いたりしないよう注意して下さい。



- 壁にピッタリと付け、探知表面全体をゆっくりとスライドさせて探知して下さい。この時探知表面上で本体を揺らしたり、傾けたり、あるいは強く押付けたりしないよう注意して下さい。
- もう片方の手や身体他の部分が探知表面に触れないようにして下さい。探知結果に影響を及ぼします。
- もし探知結果に一貫性がない場合、湿度、壁内の空洞や石膏ボード壁内に溜まった水分、または最近塗られた塗料や壁紙がまだ完全に乾いていないことなどが理由に挙げられます。湿気はいつも目に見えるというわけではありません。条件により、製品のセンサー機能に影響していることがあります。壁が完全に乾燥するまで数日間待つて下さい。

- 電線や配管の深さによって、これらの物体も梁や間柱と同じように探知されることがあります。このような物体を含んでいる可能性がある壁や床、そして天井への釘打ち、切断、あるいは穴開けをする際には常に注意して下さい。

- 予期しない事態を防ぐため、間柱や梁は通常約 40~60 cm の間隔で設置され、その幅は 38 mm 程であることを覚えておいて下さい。**これよりも近くに隣接しているものや異なる幅のものは、間柱、梁、防火帯以外のものである可能性があります。**

電線の近くで作業する時は常に電源を切って下さい。

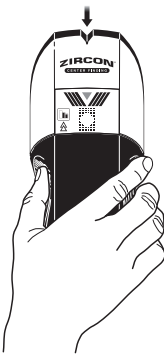
異なる壁面上での探知

塗装直後の壁：乾くのに一週間、またはそれ以上かかることもあります。

壁紙：スタッドセンサー™ HD75 は、素材が金属箔や金属繊維だったり、塗ったばかりでまだ乾いていない状態にある壁を除いては、通常壁紙や布で覆われている壁上でも問題なく探知します。壁紙は、完全に乾くのに塗布後数週間必要なこともあります。

多分に表面加工されている壁、または音響天井：デコボコの天井や壁面上を探知する時は薄めのボール紙を表面に置き、その上から「深」モードで探知して下さい。不規則な探知結果が出た時は金属モードに切り替え、梁や間柱に沿って縦方向に打ち付けられた釘や石膏ボード用のネジを探知して下さい。

木製フロアリング、下張り、またはベニヤ板上の石膏ボード：「深」モードに切り替え、本体をゆっくりと動かして下さい。厚い壁や床を通して梁・間柱を探知した場合、シグナル強度インジケータが1本か2本しか現れないこともあります。



- 電線や配管の深さによって、これらの物体も梁や間柱と同じように探知されることがあります。このような物体を含んでいる可能性がある壁や床、そして天井への釘打ち、切断、あるいは穴開けをする際には常に注意して下さい。

- 予期しない事態を防ぐため、間柱や梁は通常約 40~60 cm の間隔で設置され、その幅は 38 mm 程であることを覚えておいて下さい。**これよりも近くに隣接しているものや異なる幅のものは、間柱、梁、防火帯以外のものである可能性があります。**

電線の近くで作業する時は常に電源を切って下さい。

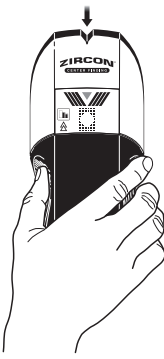
異なる壁面上での探知

塗装直後の壁：乾くのに一週間、またはそれ以上かかることもあります。

壁紙：スタッドセンサー™ HD75 は、素材が金属箔や金属繊維だったり、塗ったばかりでまだ乾いていない状態にある壁を除いては、通常壁紙や布で覆われている壁上でも問題なく探知します。壁紙は、完全に乾くのに塗布後数週間必要なこともあります。

多分に表面加工されている壁、または音響天井：デコボコの天井や壁面上を探知する時は薄めのボール紙を表面に置き、その上から「深」モードで探知して下さい。不規則な探知結果が出た時は金属モードに切り替え、梁や間柱に沿って縦方向に打ち付けられた釘や石膏ボード用のネジを探知して下さい。

木製フロアリング、下張り、またはベニヤ板上の石膏ボード：「深」モードに切り替え、本体をゆっくりと動かして下さい。厚い壁や床を通して梁・間柱を探知した場合、シグナル強度インジケータが1本か2本しか現れないこともあります。



ラスとしっくい堀：しっくいにはその厚み (密度) に一貫性がないため、本製品ではこのような素材を通しての探知はできません。

スタッドセンサー™ HD75 は、カーペットやパッドを通して木製の梁・間柱を探知することはできません。「浅」モードにおいては、ガラス、陶磁器性 (セラミック) タイルや金箔など、密度の高い素材を通しての探知はできません。

注：センサーの機能する深さおよび精度は、湿気、素材の成分、壁の生地、および塗料によって影響を受け変動することがあります。室内使用向け。

⚠️ 注意 完全に探知器だけを頼らず、壁の図面、壁表面に見える配管や電線の挿入箇所、および通常の間柱の設置間隔など、他の情報も考慮に入れ作業を行って下さい。

3. 「浅」・「深」モードの調整

スタッドセンサー™ HD75 の調整 (カリブレーション) は壁上のどの位置でも行えます。本製品は一度電源を入れると自動的に調整を行います。調整が完了するまで液晶画面に全てのサイン、インジケータが表示されます。調整が完了すると、SpotLite™ (スポットライト) ポインターと短い音が瞬間的に作動し、探知表面の連続測定を即開始します。ON/OFF ボタンを押した状態で、本体を壁にピッタリと付けたまま探知を開始して下さい。

注：本体を動かす前に、調整が完了する (約1~2秒間) のを必ず確認して下さい。正確な探知を行うためにとても重要です。

ACT™ (アクト - 自動修正技術)：

本製品は、作動中に必要に応じて自動的に再調整を行います。これは全て表面下で行われるため、通常何の表示もありません。もし矢印が画面上に現れた時は、当初の調整が梁・間柱の真上、またはそれにとても近い位置で行われ、その後別の場所に動いたこ

ラスとしっくい堀：しっくいにはその厚み (密度) に一貫性がないため、本製品ではこのような素材を通しての探知はできません。

スタッドセンサー™ HD75 は、カーペットやパッドを通して木製の梁・間柱を探知することはできません。「浅」モードにおいては、ガラス、陶磁器性 (セラミック) タイルや金箔など、密度の高い素材を通しての探知はできません。

注：センサーの機能する深さおよび精度は、湿気、素材の成分、壁の生地、および塗料によって影響を受け変動することがあります。室内使用向け。

⚠️ 注意 完全に探知器だけを頼らず、壁の図面、壁表面に見える配管や電線の挿入箇所、および通常の間柱の設置間隔など、他の情報も考慮に入れ作業を行って下さい。

3. 「浅」・「深」モードの調整

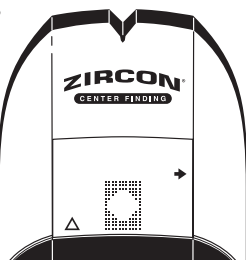
スタッドセンサー™ HD75 の調整 (カリブレーション) は壁上のどの位置でも行えます。本製品は一度電源を入れると自動的に調整を行います。調整が完了するまで液晶画面に全てのサイン、インジケータが表示されます。調整が完了すると、SpotLite™ (スポットライト) ポインターと短い音が瞬間的に作動し、探知表面の連続測定を即開始します。ON/OFF ボタンを押した状態で、本体を壁にピッタリと付けたまま探知を開始して下さい。

注：本体を動かす前に、調整が完了する (約1~2秒間) のを必ず確認して下さい。正確な探知を行うためにとても重要です。

ACT™ (アクト - 自動修正技術)：

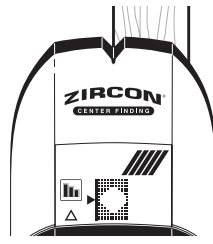
本製品は、作動中に必要に応じて自動的に再調整を行います。これは全て表面下で行われるため、通常何の表示もありません。もし矢印が画面上に現れた時は、当初の調整が梁・間柱の真上、またはそれにとても近い位置で行われ、その後別の場所に動いたこ

とを意味します。矢印はこの見逃された間柱の方向を表示します。

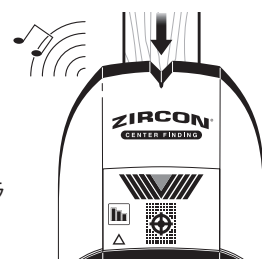


4. 梁・間柱の探知 - 「浅」モード (△)

常に本体を壁にピッタリと付けて探知を行って下さい。ON/OFF ボタンを押し、放さずに押し続けます。ピーツという短い音で調整完了を確認したら探知を開始します。

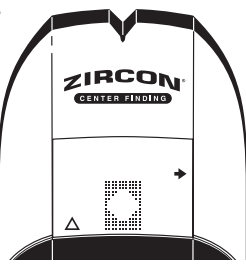


本体を横方向にゆっくりとスライドさせます。『端』インジケータが画面上に現れ、梁・間柱の『端』の位置が表示されます。



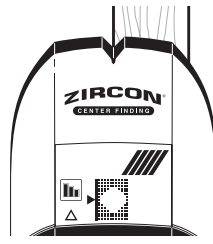
そのまま続けてスライドさせます。梁・間柱の『中心』が見つかったと、シグナル強度インジケータのバー3本、ターゲット・インジケータ中央のバー、『中心』インジケータ、そして SpotLite™ (スポットライト) ポインターが全て点灯し、ピーツという短い音が鳴ります。

とを意味します。矢印はこの見逃された間柱の方向を表示します。

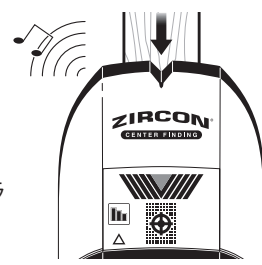


4. 梁・間柱の探知 - 「浅」モード (△)

常に本体を壁にピッタリと付けて探知を行って下さい。ON/OFF ボタンを押し、放さずに押し続けます。ピーツという短い音で調整完了を確認したら探知を開始します。

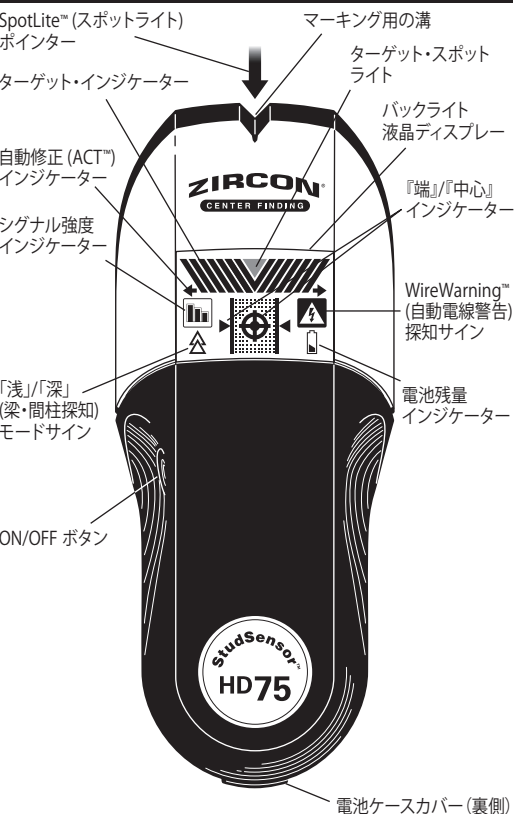


本体を横方向にゆっくりとスライドさせます。『端』インジケータが画面上に現れ、梁・間柱の『端』の位置が表示されます。



そのまま続けてスライドさせます。梁・間柱の『中心』が見つかったと、シグナル強度インジケータのバー3本、ターゲット・インジケータ中央のバー、『中心』インジケータ、そして SpotLite™ (スポットライト) ポインターが全て点灯し、ピーツという短い音が鳴ります。

スタッドセンサー™ HD75 OneStep™ 梁・間柱の『中心』探知器



スタッドセンサー™ HD75 OneStep™ は、壁裏、床下、天井裏に隠れた木製と金属製の梁や間柱の『中心』と『端』を素早くワンステップで探知します。本製品には青のバックライト、ターゲット・スポットライト、さらに特許取得済みのSpotLite™ (スポットライト) ポインターが搭載されています。WireWarning™ (自動電線警告) 探知機能は、「浅」・「深」の両モード作動中に通電中の AC (交流) 電圧・電線を自動的に探知してお知らせします。

1. 電池の取り付け・交換

本体裏側下方の電池ケースカバーのつまみを押し、カバーを開けて下さい。プラス (+) とマイナス (-) の端末をケース内に印刷された図に合わせて、新しい 9 ボルトの角電池を挿入して下さい。電池をしっかり押し込み、カバーを閉めます。

電池残量インジケータ：電池の残りが少なくなると、電池残量インジケータが液晶画面上に現れます。この時点では本体は作動しますが、できるだけ早く新しい電池に交換して下さい。インジケータが点滅し始め、画面上にその他の表示が何も現れない場合は、電池残量が本体の作動に必要なレベルを下回ったことを意味します。直ぐに新しい電池に取り替えて下さい。

Zircon 製品、特に液晶 (LCD) 画面を搭載したモデルは、電池からの電流を大量に消費します。これらの製品が最適な状態で作動するように、新しいアルカリ乾電池をご使用下さい。

製品の取扱には万全を期しておりますが、万が一問題が生じた場合は、まず電池を新品のものと交換して下さい。それでも問題が解決しない時には、最寄の Zircon 代理店、または E メール (info@zircon.com) でカスタマーサービスまでお問い合わせ下さい。

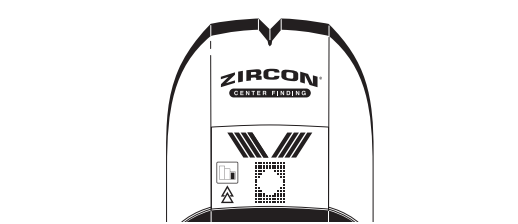


梁や間柱が深い位置にある(壁が厚い)場合は、梁・間柱の『中心』を探知すると、シグナル強度インジケーターのバー2本と、SpotLite™ (スポットライト) ポインター、ターゲット・インジケーター中央のバーのみが表示されます。それでも梁・間柱が見つからない時は、セクション5の「梁・間柱の探知 - 「深」モード」を参照して下さい。

注: 本製品は配管や導管などの梁・間柱以外の物質も探知する可能性があります。探知した物質が梁・間柱かどうかの確認する方法は、**セクション2の「操作上のヒント」**を参照して下さい。

5. 梁・間柱の探知 - 「深」モード (△)

セクション4の手順に従っても梁・間柱が探知できない場合は、間柱がさらに深い位置にある(壁が厚い)可能性があります。このような場合には、本体スイッチがONに入りビッパリと壁面に置かれた状態のまま、素早く(一秒間内に)ON/OFF ボタンを一度離してから再度押し直します。液晶画面の三角形型の「浅(△)モードサインが消え、代わりに二重三角形型の「深(△)モードサインが点灯します。これで「深」モードに切り替わりました。梁・間柱が壁裏の深い場所にある場合は、ターゲット・インジケーターの何本かのバーだけ点灯する場合もあります。

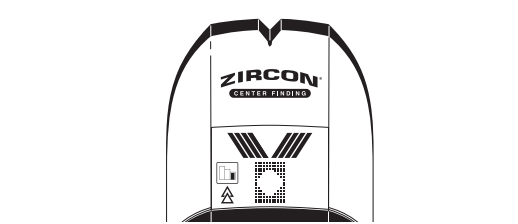


梁や間柱が深い位置にある(壁が厚い)場合は、梁・間柱の『中心』を探知すると、シグナル強度インジケーターのバー2本と、SpotLite™ (スポットライト) ポインター、ターゲット・インジケーター中央のバーのみが表示されます。それでも梁・間柱が見つからない時は、セクション5の「梁・間柱の探知 - 「深」モード」を参照して下さい。

注: 本製品は配管や導管などの梁・間柱以外の物質も探知する可能性があります。探知した物質が梁・間柱かどうかの確認する方法は、**セクション2の「操作上のヒント」**を参照して下さい。

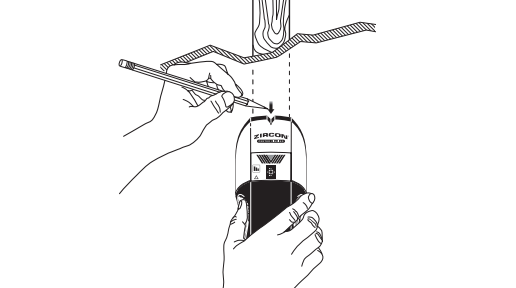
5. 梁・間柱の探知 - 「深」モード (△)

セクション4の手順に従っても梁・間柱が探知できない場合は、間柱がさらに深い位置にある(壁が厚い)可能性があります。このような場合には、本体スイッチがONに入りビッパリと壁面に置かれた状態のまま、素早く(一秒間内に)ON/OFF ボタンを一度離してから再度押し直します。液晶画面の三角形型の「浅(△)モードサインが消え、代わりに二重三角形型の「深(△)モードサインが点灯します。これで「深」モードに切り替わりました。梁・間柱が壁裏の深い場所にある場合は、ターゲット・インジケーターの何本かのバーだけ点灯する場合もあります。



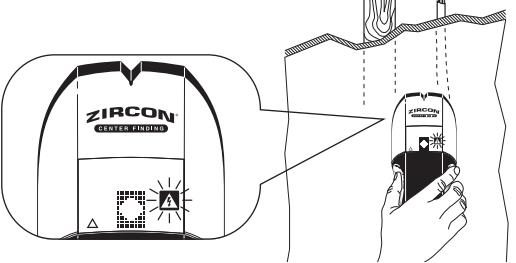
6. 梁・間柱『中心』のマーキング

一度壁裏のターゲットを探知したら、本体上部にあるV型の溝を使って SpotLite™ (スポットライト) ポインターが点灯する位置に印を付けます。これが探知されたターゲットの中心です。



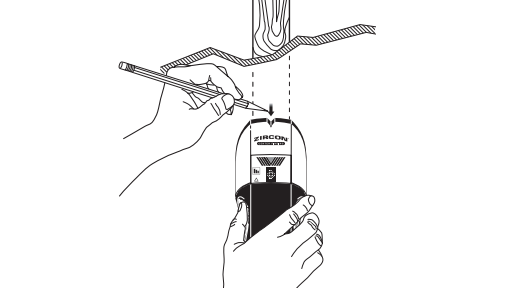
7. WIREWARNING™ (自動電線警告) 探知機能 (▲)

WireWarning™ (自動電線警告) 探知機能はモードに関係なく常時作動しています。通電中のAC (交流) 電圧を感知すると、電線警告サイン(▲)が画面上に表示されます。探知が通電線上で開始された場合は電線警告サインが継続的に点滅します。このような状況下や、通電線が存在する場合は充分注意して下さい。



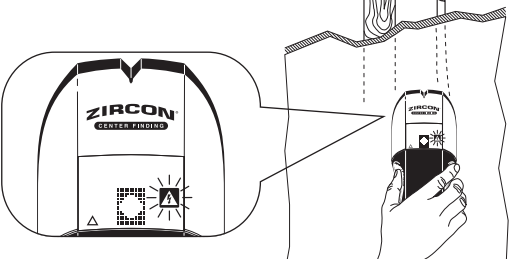
6. 梁・間柱『中心』のマーキング

一度壁裏のターゲットを探知したら、本体上部にあるV型の溝を使って SpotLite™ (スポットライト) ポインターが点灯する位置に印を付けます。これが探知されたターゲットの中心です。



7. WIREWARNING™ (自動電線警告) 探知機能 (▲)

WireWarning™ (自動電線警告) 探知機能はモードに関係なく常時作動しています。通電中のAC (交流) 電圧を感知すると、電線警告サイン(▲)が画面上に表示されます。探知が通電線上で開始された場合は電線警告サインが継続的に点滅します。このような状況下や、通電線が存在する場合は充分注意して下さい。



⚠ 注意 電線が探知表面から5 cm 以上離れたいる場合、コンクリートや導管内にある場合、合板壁や金属製の壁面カバーの裏側にある場合、または壁内や探知環境に湿気がある場合、電場探知機器が通電中の電線を探知できないことがあります。






⚠ 警告 憶測だけで壁内に通電中の電線がない、と判断しないで下さい。壁内に通電中の電線がある場合は、危険な行動を取らないで下さい。穴あけを行う前に、常に電源、ガス、および水道をオフにして下さい。これらの指示に従わない場合、感電、火災、および/もしくは、重傷または物的損害が生じることがあります。

電線の近くで作業する時は常に電源を切って下さい。

8. 役に立つヒント (セクション2の「操作上のヒント」も参照して下さい)

状況	考えられる原因	解決方法
「液晶画面上の全てのサイン、インジケーターが同時に点灯し、音が継続的に鳴る。	<ul style="list-style-type: none">本体が壁にビッパリ置かれていない。 本体が探知中に傾いたか、持ち上げられた (こうした要因は全て適切な本体自動調整に影響を与える)。 探知表面の密度が高すぎるか、湿気が多過ぎて本体が正常に作動しない。	<ul style="list-style-type: none">粗い壁面上では薄い段ボール紙の一片を壁の上に置いて、その上から「深」モードで探知すると本体をよりスムーズにスライドさせることができます。 右手の親指が片側、残りの指がもう片側にくるようにして本体のハンドル部をつかみます。この時指先がハンドル部に置かれ、探知表面や探知機能頭部などに接触していないよう注意して下さい。 本体を真っ直ぐに持ち、間柱に対して平行になるようにします。この時傾いたりしないよう注意して下さい。 ごく最近テープが貼られた壁や、塗装された壁、または壁紙が張られた壁上で本体を使用する場合は、壁面が乾くまで待つてから再度探知を行って下さい。 本体スイッチがON に入りビッパリと壁面に置かれた状態のまま、素早く(一秒間内に) ON/OFF ボタンを一度離してから再度押し直し、「深」モードに切り替えます。
「浅」モード内で梁や間柱以外の物を探知する。	<ul style="list-style-type: none">電線と金属またはプラスチック配管が壁の裏面に近接または接触している可能性がある。	<ul style="list-style-type: none">他の間柱が両側に 30、40、または 60 cm 間隔にあるかどうか、あるいは同じ間柱が最初の探知範囲のすぐ上またはすぐ下のいくつかの場所にあるかどうかをチェックして下さい。間柱は通常床から天井に向けて縦に配置されていますが、配管の場合は様々な方向に伸びていることが考えられます。 間柱の場合は、探知範囲の幅が約 38 mm になるはずです。これより狭かったり広かったりする場合、ドアや窓枠の近くを除いては、探知したターゲットは恐らく間柱以外の物体です。
電線の存在が疑われるのだが、何も探知されない。	<ul style="list-style-type: none">電線が金属製の壁面カバー、ベニヤ合板壁、またはその他の密度の濃い素材の背部、または導管内でシールドされている可能性がある。 表面から 50 mm 以上深い電線は探知されないことがある。 電線が通電していない可能性がある。	<ul style="list-style-type: none">ベニヤ板、石膏ボード裏側にある厚い木製の裏張り、または普通よりも厚い壁が存在する場合は、特に注意をして下さい。 スイッチでコンセントをコントロールする場合は、探知の際に必ずそれをオンにしておいて下さい。ただし、電線の近くで作業するときはオフにして下さい。 <p><i>これらの物質が存在する可能性がある場所です壁、床、天井への釘打ち、切断、または穴開け作業をする時は注意をして行って下さい。</i></p>
電圧探知結果が実際の電線よりもはるかに大きな幅で表示される。	<ul style="list-style-type: none">電圧探知は石膏ボード壁上では、実際の電線の各側から最大30 cm まで広がる可能性がある。	<ul style="list-style-type: none">探知を狭めるには、電線が感知された箇所の端部で本体の電源をオンオフにして再度探知を行って下さい。
電池残量インジケーターが点滅し、本体が作動しない。	<ul style="list-style-type: none">電池残量が低過ぎて本体が正常に作動しない。	<ul style="list-style-type: none">新しいアルカリ乾電池 (9 ボルト角形) と交換して下さい。






ACT、DeepScan、ディーブスキャン、StudSensor、マルチスキャナー、OneStep、ワンステップ、SpotLite、スポットライト、WireWarning、および Zircon は Zircon Corporation の登録商標または商標です。

最新版の取扱説明書、または製品に関する詳細は、当社ホームページ (www.zircon.com) をご覧下さい。		ZIRCON
限定一年間保証 Zircon Corporation (以下「Zircon」とする)は、本製品をお買い上げになった日から一年間、その部品および仕上げのどちらにも欠陥が無いことを保証します。製品の取扱には万全を期しておりますが、万が一製品購入後一年以内に欠陥が確認された製品は、購入日を証明する書類 (日付け付きのレシート、または領収書) と共に、製品をお買い上げになった代理店・店舗までご持参下さい。代理店の判断により代替させていただきます。この保証は、電子回路および製品本来のケースに限定されるもので、誤用、不適当な使用、不注意などによる損傷は特に除外されます。この保証は、明示または黙示に関わらずその他全ての保証の代わりとなるもので、その性質に関わらず他のいかなる表現や主張も、Zircon を拘束したり義務づけることはいないものとします。本製品に適用できる黙示の保証がある場合は全て、購入から一年間以内に限定されるものとします。本製品の所有、使用、または誤作動によって生じる特別損害賠償、付随的損倍賠償、あるいは間接的損害賠償	<p>については、いかなる場合にも Zircon が責任を負うことはないものとします。</p> <p>カスタマーサービス 製品に関する詳しい情報やお問い合わせは、お手数ですが最寄の代理店、または下記の方法で直接 Zircon Corporation 本社までご連絡下さい。</p> <p>ホームページ： www.zircon.com Eメール： info@zircon.com TEL: +1 (408) 963-4550 FAX: +1 (408) 963-4597</p> <p>© 2017 Zircon Corporation • P/N 68839 • Rev A 01/17</p>	<p> ZirconCorporation  ZirconTV</p> <p> ZirconTools  ZirconTools </p>

8. 役に立つヒント (セクション2の「操作上のヒント」も参照して下さい)

状況	考えられる原因	解決方法
「液晶画面上の全てのサイン、インジケーターが同時に点灯し、音が継続的に鳴る。	<ul style="list-style-type: none">本体が壁にビッパリ置かれていない。 本体が探知中に傾いたか、持ち上げられた (こうした要因は全て適切な本体自動調整に影響を与える)。 探知表面の密度が高すぎるか、湿気が多過ぎて本体が正常に作動しない。	<ul style="list-style-type: none">粗い壁面上では薄い段ボール紙の一片を壁の上に置いて、その上から「深」モードで探知すると本体をよりスムーズにスライドさせることができます。 右手の親指が片側、残りの指がもう片側にくるようにして本体のハンドル部をつかみます。この時指先がハンドル部に置かれ、探知表面や探知機能頭部などに接触していないよう注意して下さい。 本体を真っ直ぐに持ち、間柱に対して平行になるようにします。この時傾いたりしないよう注意して下さい。 ごく最近テープが貼られた壁や、塗装された壁、または壁紙が張られた壁上で本体を使用する場合は、壁面が乾くまで待つてから再度探知を行って下さい。 本体スイッチがON に入りビッパリと壁面に置かれた状態のまま、素早く(一秒間内に) ON/OFF ボタンを一度離してから再度押し直し、「深」モードに切り替えます。
「浅」モード内で梁や間柱以外の物を探知する。	<ul style="list-style-type: none">電線と金属またはプラスチック配管が壁の裏面に近接または接触している可能性がある。	<ul style="list-style-type: none">他の間柱が両側に 30、40、または 60 cm 間隔にあるかどうか、あるいは同じ間柱が最初の探知範囲のすぐ上またはすぐ下のいくつかの場所にあるかどうかをチェックして下さい。間柱は通常床から天井に向けて縦に配置されていますが、配管の場合は様々な方向に伸びていることが考えられます。 間柱の場合は、探知範囲の幅が約 38 mm になるはずです。これより狭かったり広かったりする場合、ドアや窓枠の近くを除いては、探知したターゲットは恐らく間柱以外の物体です。
電線の存在が疑われるのだが、何も探知されない。	<ul style="list-style-type: none">電線が金属製の壁面カバー、ベニヤ合板壁、またはその他の密度の濃い素材の背部、または導管内でシールドされている可能性がある。 表面から 50 mm 以上深い電線は探知されないことがある。 電線が通電していない可能性がある。	<ul style="list-style-type: none">ベニヤ板、石膏ボード裏側にある厚い木製の裏張り、または普通よりも厚い壁が存在する場合は、特に注意をして下さい。 スイッチでコンセントをコントロールする場合は、探知の際に必ずそれをオンにしておいて下さい。ただし、電線の近くで作業するときはオフにして下さい。 <p><i>これらの物質が存在する可能性がある場所です壁、床、天井への釘打ち、切断、または穴開け作業をする時は注意をして行って下さい。</i></p>
電圧探知結果が実際の電線よりもはるかに大きな幅で表示される。	<ul style="list-style-type: none">電圧探知は石膏ボード壁上では、実際の電線の各側から最大30 cm まで広がる可能性がある。	<ul style="list-style-type: none">探知を狭めるには、電線が感知された箇所の端部で本体の電源をオンオフにして再度探知を行って下さい。
電池残量インジケーターが点滅し、本体が作動しない。	<ul style="list-style-type: none">電池残量が低過ぎて本体が正常に作動しない。	<ul style="list-style-type: none">新しいアルカリ乾電池 (9 ボルト角形) と交換して下さい。

ACT、DeepScan、ディーブスキャン、StudSensor、マルチスキャナー、OneStep、ワンステップ、SpotLite、スポットライト、WireWarning、および Zircon は Zircon Corporation の登録商標または商標です。

最新版の取扱説明書、または製品に関する詳細は、当社ホームページ (www.zircon.com) をご覧下さい。		ZIRCON
限定一年間保証 Zircon Corporation (以下「Zircon」とする)は、本製品をお買い上げになった日から一年間、その部品および仕上げのどちらにも欠陥が無いことを保証します。製品の取扱には万全を期しておりますが、万が一製品購入後一年以内に欠陥が確認された製品は、購入日を証明する書類 (日付け付きのレシート、または領収書) と共に、製品をお買い上げになった代理店・店舗までご持参下さい。代理店の判断により代替させていただきます。この保証は、電子回路および製品本来のケースに限定されるもので、誤用、不適当な使用、不注意などによる損傷は特に除外されます。この保証は、明示または黙示に関わらずその他全ての保証の代わりとなるもので、その性質に関わらずその他のいかなる表現や主張も、Zircon を拘束したり義務づけることはいないものとします。本製品に適用できる黙示の保証がある場合は全て、購入から一年間以内に限定されるものとします。本製品の所有、使用、または誤作動によって生じる特別損害賠償、付随的損倍賠償、あるいは間接的損害賠償	<p>については、いかなる場合にも Zircon が責任を負うことはないものとします。</p> <p>カスタマーサービス 製品に関する詳しい情報やお問い合わせは、お手数ですが最寄の代理店、または下記の方法で直接 Zircon Corporation 本社までご連絡下さい。</p> <p>ホームページ： www.zircon.com Eメール： info@zircon.com TEL: +1 (408) 963-4550 FAX: +1 (408) 963-4597</p> <p>© 2017 Zircon Corporation • P/N 68839 • Rev A 01/17</p>	<p> ZirconCorporation  ZirconTV</p> <p> ZirconTools  ZirconTools </p>